

会 議 録

会議名 (審議会等名)	令和3年度第2回相模原市文化振興審議会		
事務局 (担当課)	文化振興課 電話042-769-8202 (直通)		
開催日時	令和4年1月27日(月) 10時00分から12時10分まで		
開催場所	相模原市役所 第1別館1階 第2会議室 他		
出席者	委員	11人(別紙のとおり)	
	その他	0人(別紙のとおり)	
	事務局	5人(市民局スポーツ・文化担当部長、文化振興課長、外3人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1 開 会 2 議 題 (1) 第3次さがみはら文化芸術振興プラン年次報告書について 3 報 告 (1) 新型コロナウイルス感染症に係る本市の対応状況について 4 その他 (1) 新たな情報発信ツールの運用について 5 閉 会		

議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。

1 開 会

事務局より会議の開催方法について、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する観点から前回同様オンラインでの開催としたことについて説明を行った。

会議開始後、市民局スポーツ・文化担当部長より挨拶を行い、事務局より篠崎委員、戸塚委員の欠席について報告するとともに、出席委員の人数が定足数に達していることを確認した。

2 議 題

(1) 第3次さがみはら文化芸術振興プラン年次報告書について

事務局から資料1に基づき、年次報告書(案)について説明を行った。

(木口委員) 報告書を拝見したが多くの事業やイベントが出来ていると感じる。最近のイベントは実施規模の制限や大声を出さないというキーワードがある。文化芸術分野の特性を活かし、工夫次第で実施出来るイベントがあると思う。

(井部委員) SDGsの取組として、文化財団では文化芸術の持つ価値を様々な場面に活用していきたいと考えており、教育機関との連携を深めている。そうした中で学校訪問授業にも積極的に取り組み、令和2年度からは新たに中学校2校で落語を見ていただくキャリア教育関連事業を実施したため、可能であれば報告書に記載いただきたい。

(樋口委員) 学校訪問授業は、コロナ禍で管楽器を打楽器に変更するなどして実施し、今年度は文化財団の協力により学校を訪問するメンバーはPCR検査を行うなど、学校の理解を得ながら進めている。ホールに来てもらうのではなく、様々な環境の子どもたちが属している学校現場に出向いて、鑑賞体験の機会を提供することはとても大事な事だと感じているので、市で色々な団体を巻き込んだマッチングを進めていただきたい。また、文化財団と音楽家連盟が協力して相模原ジュニアオーケストラを15年続けてきた。そこで育った子どもたちはプロとなって連盟の会員となり、学校訪問授業で出身校に行って演奏するというサイクルが出来ていた。第2次プランにはこの事業の記載があった、第3次プランではなくなってしまったので、本事業の延期について記載いただきたい。話は変わるが、市が取り組んでいるYouTubeでの配信は、音楽家連盟の会員も積極的に参加しているが、配信の期間があるのか、またいつまで募集するのか。

(事務局) YouTubeはGoogleのサービスであり、規定では掲載期間が定められていないため、市として期限を定めて削除するという考えはない。一度掲載されたもの

は、申請者から削除依頼がなければ掲載し続ける予定でいる。

(金子委員) 相模大野駅のステーションピアノは今も設置されているのか、または期間限定の設置なのか。

(事務局) ステーションピアノは南区役所が実施した事業の一つであり、期間を限定してスポット的に設置したものであり、常設したものではない。

(金子委員) 文化庁の依頼で他県に邦楽の演奏で出向くことが多い。昨年行った千葉市では、独自に予算を組み邦楽演奏家を学校へ派遣していた。相模原市でも伝統音楽を子どもたちに体験させてあげることが検討していただきたい。また、文化財施設の整備や充実についてだが、小原宿本陣などの取組はすばらしい。今後も他の施設で修繕する予定はあるのか。

(事務局) 小原宿本陣では畳の修繕を実施した。個別に修繕が必要になったところは予算に応じて修繕を行っているところである。今後大規模な修繕予定はないが、必要に応じて適宜小規模な修繕は行っていく。

(井部委員) ステーションピアノは文化財団も広報で協力した。駅ピアノや空港ピアノなどはNHKなどで紹介され非常に評判が高い事業であるが、夜間傷つけられないような場所に設置されている。今回の相模原市の実施は、保管に課題があり常設にするのは難しいものであった。駅ピアノのように身近にピアノを弾くという目的よりも、街の賑わいに貢献するという位置付けで実施されている。

(友田委員) 文化活動の支援に関して、コロナ禍での1次評価Aは正しいとは思いますが、アマチュアなどの文化活動、特に合唱や音楽関係では、緊急事態宣言で施設が閉館してしまったので、中止と記載はあるが出来なかったという側面があるものも多い。公民館などで普段の練習が出来ないと活動自体も出来ない。小さな団体では活動を止めてしまったものも少なくない。自治体によっては時短はあったが開いていたところも多かった。相模原市はかなり厳しくて施設休館になったところが多く、それがやはり活動を阻んだ大きな原因ではないかと思う。多摩地区などで時短ではあるが練習会場やホールが開いている時があったが、それによってクラスターが発生したという情報はない。音楽家も活動するときかなり気をつけているので、条件や環境で制約されてしまうと厳しい面がある。判断は難しいと思うがそのあたりが活動基盤になっていることを留意いただきたい。

(三本委員) 地方自治体が財政逼迫している中で、現状をよく考えての取組だったのではないかと大きく評価する。先ほどのYouTubeの話に関連するが、期間の定めがないとのことだが、ライブハウスなどでは限定配信という形で、見たい人はお金を払って期間限定で見えていただく。そのような形が果たして市で可能かわからないが、そういう格付けをしていくのも今後の課題ではないかと思う。多少なりとも財政逼迫状況に利益を得るといふ考えや、参加している音楽家にも利益が還元されるということも今後の検討事項ではないかと考える。それから、第1章の

中で触れられていた藤野地区での野外彫刻の扱いについて、制作した作家が高齢化しているのではと危惧している。著作権の問題があるので、今後どのようなメンテナンスをし、保存していくか課題であると感じている。また、先ほどの駅ピアノについてだが、コストの問題も今後は考えていく必要がある。また、SNSでの発信は、動画の制作時間と作業量が伴う。特に映像は非常に手間暇かかる作業であるため、学生、アマ、プロ問わず市民から募り、現場の作業量を少しでも緩和出来る方向もあるのではと考える。

(中里副会長) 作成された膨大な資料を拝見して、コロナ過での事務局のご苦勞や事業実施の実績というものが見て取れ、その勞に対して深く感謝申し上げる。この2年間非常に厳しいコロナ過で、我々大学でも制約を受けたが、去年は八王子市の文化ふれあい財団と大学院の授業で写し絵やアニメの原型と言われる幻灯などにシナリオを作って放映をする影プロジェクトを実施し、人数制限しながら親子を招いてのワークショップ体験を実施することが出来た。10月には墨田・向島エキスポに参加し、12月にも青梅市で対面での授業をして、市民の方と触れ合う機会も出来た。なかなか構想があっても出来なかったことも多く、今回の市の報告書で中止の多さに驚いたが、なんとか工夫しながらやれることが見えてきたのではないかと。YouTube や SNS を使うことも、一つのやり方として非常に有効性があると皆気づいてきている。コロナの前からその有効性は皆さんどこかでちゃんと享受されていたと思うが、若者が中心だったので、広く市民の方一般、年齢の高い層まで享受出来るようなアナウンスやワークショップなどを緩やかにやっていくといいのではと考える。これから何年後かはわからないが、コロナが収束していくだろう2年後か3年後、その時にきっとここで皆さんが逡巡されていることや、議論されていることが花開していくような気がしている。そしてコロナと関係なく、市民の文化サポーター、カルチャーサポーターの育成は、考えなければならない一つの本質的な部分である。それぞれの専門的なアーティストや、クリエイターにアクセスするプラットフォームをどう作っていくか。これからどこの行政も団体も、そこがネックであり大きな課題なのかなと感じている。相模原の様々な文化施設や文化資源、景観資源、あるいは食のカルチャーも含めて旅するような YouTube やゲーム感覚での情報発信によって、子どもでも遊びながら相模原の認知度を上げ、なおかつチェーンのようにつながっていく。複合的に巡れたりリサーチ出来るような楽しいゲーム感覚での YouTube 配信が出来るといいのではと考える。美大のメディアデザインの学生はそういうものの制作が得意なので、産学あるいは行政が絡んだ取り組みの公募をかけてみるというのがあるのではないかと。そうすると、大学とのコラボのほか、一般の方でも YouTuber や、ゲームを作れる人、あるいはこれから起業する人、そういう人たちにとってもチャンスではないかと思うし、そこに相模原の魅力というのが乗り、文化やアートが

広く市民に教育されていく。文化リテラシーみたいなものが自然に身に付くことが、一つ理想ではあるが、これはかなり大きな話だし、すぐ出来るかどうか分からないが、アイデアとして考えましたのでお伝えしておきます。

(大森会長) 次に評価について、プランの年次報告書は多くの方々に読んでもらえることが重要であり、今後を見通していくときの考えるヒントになればと感じている。様々な活動が制限されているので、どうしても文化活動でも中止というのは多くなる。基本目標の1、2では、テクノロジーの活用という新しいツールにSNSやYouTubeという話が出ていたが、当然これは特段コロナがなくても活用される時代に入ってきた。今回特に目立って活用したということで、基本目標1はA評価ということになっていると思うが、評価の時に数的なことだけではない活動やローカルなものをどうやって拾い、フォローアップしていけるのかという点が問題として出てくるといふことと、相模原市のYouTubeについては再生回数だけでなく分析が必要である。見られている時間帯、年齢層などを分析すれば、皆さんの活動がどういったところで求められて、どういうふうに使われているのか、後継者育成など教育面でのフォローが出来る可能性など、1、2章あたりでその辺の分析が必要なのでは、というところが見えてきた。例えば音楽会が直前で中止になれば、音楽家の方たちはピークの状態では演奏が出来るような状態になっているので、質の高い状態で公開出来るような新しい形を考えていくことと、芸術家の方々は中止になってどういう暮らしになっていくのかをリサーチしていかないと助成したりあるいは継続していくことは難しくなると考える。ヨーロッパのアーティストたちと話してみると、中止になってよかったという人も実はいる。制作に集中出来たという話をする人もいて、なぜかという生活基盤がしっかり守られるためのセーフティネットがあるということであった。行政としてどう取り組むかがこの振興プランのなかで謳われていくことも大事である。中止で終わりではなく、その後芸術家や団体がどういう推移を辿ったか、団体が無くなったということが学びとして生かされ、次にそうならないようにどういうところを改善したらいいのかが出てくるのが望ましいのではと考える。基本目標3の人材育成について、子どもたちの発達段階において1年違えばその後の鑑賞の機会を受けていく影響はかなり大きい。子どもたちの発達なので中止で終わりではなく、その教育であったり発達の中で与える影響を専門家を入れて分析し、フォローしていくようなシステムが必要である。基本目標4については、本審議会でも議論されているが、例えば文化財プラス音楽、あるいは写真などで分母を変えた時に、どの様に継承され保護されていくか、あるいは認知度が上がっていくかという視点で新しい取組が考えられる。全体として、写真文化を相模原市では強く打ち出してきた。日常の中でオリンピックのピクトグラムなどが話題になったが、映像をうまく使って情報を伝えるとか、暮らしの側面をうまく周知するなど、写真を

いろいろな所で活用していく可能性がこの資料でも見られるが、中止ということ
で活用方法が閉じているのかなという部分も見えたので今後につながればよい。
それでは、審議会として2次評価をまとめていきたい。基本目標1市民の文化芸
術活動の活性化に対する評価について、1次評価はAとなっているがいかがか。
もし、違う評価が望ましいということであれば、具体的な理由と評価をいただけ
ればと思う。

(上條委員) アートラボはしもとは、相模大野方面に住んでいる人には遠くて行きに
くい。桜台小学校は空き教室を美術館にして市民に開放しており、ガザの画家た
ちの展覧会を開催し画家と市民の交流を図った。私が教えた子の絵を飾ると小学
生がその絵の感想を書いてくれる。そういう取組はとてもいいと感じる。廃校や
空き教室の活用は大事である。話は大きくなるが、今後の相模原市の文化はどう
あるべきかという、大きな枠の取組として専門の学芸員が必要である。そうした
視点を踏まえ中で1次評価を見るといい評価になっていることに疑問がある。

(井部委員) 1次評価のAは、定量的な評価だと考える。2次評価で私たちが定性評
価を加えてこの定量評価を上下させていいのか。はっきり数値でAだと出ている
ものを変えるのは根拠が必要である。上條委員からのお話を伺うと定性的な評価
を加えて、1次評価を変えることになるがそうした修正は出来ると考えてよいか。

(事務局) ご意見は非常に大切なことだと受け止めるが、今回のとりまとめについ
ては定量的な評価を採用していただき、次年度以降、定性的な部分を加味しながら
評価を決める方法を採用していければと考えている。

(大森会長) Aという評価の前提を築き上げる時に対面での事業実施ということが大
きく関わってくる。それを中止とし全て新しい SNS や YouTube でカバー出来たか
という非常に不確定なところがまだ含まれている。これをA評価にするという
ことは、逆に言えば全て中止でも相模原市では出来ているという姿勢を取る覚悟
が取れるということにもなる。委員の意見を踏まえても非常に複雑であるが、委
員の皆さんとしては、1次評価を踏襲することについていかがお考えか。

(上條委員) この基準でAにすることは疑問がある。もう少しレベルアップしてほし
い。

(三本委員)今の時点でそれぞれ意見して評価を確定することが難しいようであれば、
もう一度再読し、個別に事務局に意見する形を取ったらどうか。

(事務局 部長) 今回の評価方法については、前回の審議会の中で定量的な評価とす
ることを決めたことを踏まえてご提案させていただいたものである。そのため、今
年度については定量的な方法で評価を行い、来年度は定性的な視点を入れてやっ
ていく、あるいは、S、A、B、Cの評価をせずに文章だけでまとめるかをご議
論いただきたいと思っている。今回は定量的な形でお認めいただき、定性的な評
価は来年度に向けての課題としてご理解いただければと考えるがいかがか。

(上條委員) 多くの事業やイベントが中止になってしまったことを踏まえると評価出来る状況でない。

(事務局) 皆様がそうしたご意見であれば中止した事業等もありますので、今回はA、B、Cという評価はせず、文章だけでまとめさせていただく。

(大森会長) それであれば、私からも先ほどお話ししたように、これでAと言ってしまったら殆ど出来ている、方針を立てたものが全て達成出来たという形に見えてしまうので、コロナ禍というところは不安定だが、その点も加味して、文章での評価が出来るのであれば、それがよろしいかと思うが、他の委員の方々はいかがか。ご意見がなければ文章での評価ということで、お願いしたい。

(事務局) 承知した。全て文章の評価に統一する形でまとめていく。評価の文章を事務局で修正して、郵送等でお送りし、最終的に取りまとめる形で進める。

(大森会長) 承知した。この後も難しい文書作成をお願いすることになって、心苦しいが、次につなげられるようお願いしたい。

3 報 告

(1) 新型コロナウイルス感染症に係る本市の対応状況について

事務局から資料2に基づき、新型コロナウイルス感染症に係る本市の設置施設や市主催事業の取扱いやワクチン接種の状況について報告を行った。

4 その他

(1) 新たな情報発信ツールの運用について

事務局から資料3に基づき、Twitterなどの新たな情報発信ツールの運用について説明を行った。

(杉森委員) YouTubeの閲覧者数のカウントについて、いつ時点のカウントなのかを入れておくべきである。例えば、月の初めにカウントしたものと月末にカウントしたものでは数字が違ってしまう。数を評価の対象にしているので記載をしておくべきである。

(樋口委員) 施策の実施状況一覧表の掲載事業はこれで全てか。

(事務局) 全庁照会や文化財団など指定管理者が実施した事業、市が共催や後援を行った事業の報告内容などを吸い上げて記載しているが、漏れがあるかもしれないため、再度確認する。多くの御意見をいただいたことを踏まえて、評価については改めて案を提示させていただく。

5 閉 会

以 上

令和3年度第2回相模原市文化振興審議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	いべ やよい 井部 弥生	公益財団法人相模原市民文化財団 総務課長		出席
2	おおもり さとる 大森 悟	女子美術大学芸術学部美術学科教授	会長	出席
3	かねこ ともえ 金子 朋沐枝	相模原市文化協会副会長		出席
4	かみじょう ようこ 上 條 陽子	相模原芸術家協会会長		出席
5	きぐち えいじ 木口 詠辞	公募委員		出席
6	しのぎき しげお 篠崎 重雄	相模原市民俗芸能保存協会副会長		欠席
7	すぎもり じゅんこ 杉森 順子	桜美林大学芸術文化学群教授		出席
8	すずき まさひこ 鈴木 正彦	光と緑の美術館館長		出席
9	とつか あつお 戸塚 厚生	相模原市文化財研究協議会会長		欠席
10	ともだ ゆきお 友田 幸男	相模原市民音楽団体協会理事長		出席
11	なかざと かずひと 中里 和人	東京造形大学造形学部デザイン学科教授	副会長	出席
12	ひぐち みさこ 樋口 美佐子	相模原音楽家連盟事務局長		出席
13	みつもと ひろこ 三本 博子	公募委員		出席